

日本のリカードウ研究の新展開－理論と政策を中心に－

組織者：福田進治（弘前大学）

スラッフア編『リカードウ全集』の刊行が始まり、スラッフアのリカードウ解釈が登場してから 60 年が過ぎた。この間のリカードウ研究は、直接または間接にスラッフアのリカードウ解釈の影響を受けながら展開してきたと言えるだろう。スラッフアのリカードウ解釈については肯定的な評価だけでなく、さまざまな改善や批判を含む研究が蓄積されてきたが、研究水準全般の向上は海外でも日本国内でも目を見張るものがあった。こうした中で、リカードウ研究の歴史は一つの画期に達し、新しい時代を迎えようとしている。これを機に、リカードウ研究会のメンバーでもある若手リカードウ研究者を中心にリカードウ・セッションを開催することとした。その目的は以下のとおりである。

第 1 に、スラッフア編『リカードウ全集』刊行以来の内外のリカードウ研究の成果と経緯を踏まえて、新しい研究成果を提示することである。先述の通り、この間のリカードウ研究は直接または間接にスラッフアのリカードウ解釈の影響を受けてきた。こうしたスラッフアのリカードウ研究に対する功罪について一定の総括を行うことを通して、新しいリカードウ研究の時代を迎えなければならない。

第 2 に、欧米のリカードウ研究に対抗して、日本のリカードウ研究における独自の成果を示すことである。日本には優れたリカードウ研究の歴史があるにも関わらず、従来、その成果は欧米の研究者たちに十分に認知されてこなかった。こうした断絶を克服する作業は緒に就いたばかりであるが、こうした作業を押し進めるためにも、欧米のリカードウ研究の歴史を踏まえて、日本のリカードウ研究の独自性を示さなければならない。

第 3 に、今後のリカードウ研究の方向性を探ることである。日本のリカードウ研究はスラッフアのリカードウ解釈を乗り越えて、さらに欧米のリカードウ研究と日本のリカードウ研究の断絶を克服し、新しい時代を迎えようとしている。新しい時代のリカードウ研究は何を目指すべきか。大きな課題ではあるが、若手リカードウ研究者が中心となって今後のリカードウ研究の展望を試みることにした。

今回のセッションでは、スラッフアのリカードウ解釈に直接的に関連する問題だけでなく、その影響を念頭に置きながらも、リカードウの経済学に関わる諸問題を幅広く扱うこととした。とはいえ、広範な領域に渡るリカードウの経済学とその研究史の全体について一度に議論することはできない。そこで今回は、リカードウの経済理論と政策論に関連する特定の諸問題に焦点を当てて、報告者が各々の研究成果を提示することとした。具体的には、初期リカードウの利潤理論をめぐる問題、リカードウ『原理』の機械論をめぐる問題、同じく租税論をめぐる問題が俎上に上がる。